

編集委員会からのお知らせ

日本公衆衛生雑誌編集委員長
上原里程

会員の皆様には、平素より本誌の発行に多大なご協力をいただき感謝申し上げます。新型コロナウイルス感染症流行が長期化することにより保健医療福祉を取り巻く環境は大きく変化し、様々な公衆衛生活動がその影響を受けていると思われまます。そのような状況下において公衆衛生の多様な課題を論文という形で会員の皆様へお届けする本誌の役割は益々大きくなっているのではないかと考えております。本稿では、2022年に発刊されました第69巻1号から12号までの概況と編集委員会の主な取り組みについてご紹介します。

1. 第69巻の概況

掲載数68編で論文種別の内訳は特別論文3編、論壇2編、総説2編、原著37編、公衆衛生活動報告5編、資料17編、会員の声2編でした。第68巻からの推移をみますと、原著および公衆衛生活動報告はほぼ同数ですが、資料が増加傾向です。1号あたりの掲載数の範囲は5編から7編でした。なお、2021年1月から12月までの新規投稿数は127編、審査日数（該当月に投稿された新規投稿論文の「投稿から初回審査結果通知まで」の平均日数）26.3日、採用数63編でした。査読委員の皆様のご協力のおかげで短い日数で審査できておりますことに心より感謝申し上げます。

2. 編集委員会の主な取り組み

編集委員会では、これまで同様に常時メーリングリストで審査を行っています。論文が投稿されますと、原則、一人の編集委員が二人の査読委員とともに審査を行います。メーリングリストによる審査に加え、隔月で編集委員が顔を合わせて議論する場を設けています。審査に関連する課題や優秀論文賞、ベストレビュー賞の選考・選出、投稿規定の改定等について議論しています。新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、2021年はすべてオンラインでの会議開催となりましたが、2022年は現地とオンラインによるハイブリッドの会議を一度開催しました。現地では対面で議論ができる良さを感じると同時に、遠方の先生方がオンラインで参加くださることで現地開催以上に多くの参加が得られる良さも感じられました。コロナ禍が一段落してもオンラインの利点を活かしつつ、ハイブリッドによる開催を模索したいと考えております。また、昨年同様に、会員の皆様にとってさらに投稿しやすい雑誌になるよう、投稿規定の見直しを継続的におこないたいと考えています。昨年実施した規定の主な見直しとして、制限頁数の目安だけでなく文字数上限等を明確化したことや執筆要領の文字数、行数指定を見直したことが挙げられます。昨今の医学雑誌編集の動向を踏まえながら規定の見直しを検討していきます。

3. 会員の皆様へ：積極的なご投稿のお願い

本誌では質の高い原著論文だけでなく、現場での活用が期待できる公衆衛生活動報告など、公衆衛生の発展に寄与できる論文を数多く掲載していきたいと考えています。そのための取り組みを編集委員一同で議論しながら進めていく所存ですので、是非多くの論文をご投稿くださいますよう、よろしくごお願い申し上げます。